

いあらし

みなさまこんにちは。

早いもので、前西宮市議会議員である父、上谷幸彦の想いを継承し、議席を預かってから4年が経とうとしています。

医療従事者としての視点から思うこと、また、母として子育てをしているから分かること、西宮市の北部地域に住んでいる、ひとりの市民としての気持ちなど、一般質問の場だけでなく常任委員会や、市当局との直接のやり取りで、私なりに訴えて参りました。

まだまだ、西宮市のために実現したいことは、たくさんあります。今回の市政報告では、父と私の8期32年と、これからの西宮のために私がすべき政策を中心に執筆致しました。お付き合いのほど、宜しくお願ひ致します。

西宮市議会議員 上谷幸美(かみたにゆみ)



西宮市議会議員 上谷幸美

かみたにゆみ市政報告

KAMITANI EXPRESS

vol.5



必ず投票に参加
しましょう!



4月7日には「兵庫県議会議員選挙」 4月21日には「西宮市議会議員選挙」 があります!

近 年、西宮市全体で、選挙のたびに投票率が下がり続けています。

私の父が初当選した32年前、昭和62年の西宮市議会議員選挙の投票率は47.16%でした。

そこから投票率は下がり続け、私が初当選した4年前、平成27年の投票率は36.27%まで落ち込んでしまいました。約11%減ったということになります。

32年前と比べて、現在は有権者数が10万人ほど増えているため単純比較は難しいですが、西宮市の現在の有権者数の約39万人を基準に考えれば、その数約4万人。

これは、単純計算で市議会議員を約20名当選させられる計算になります。

「西宮市のことをみんなで決める」という観点から、投票率の向上は大変重要な課題ですが、これについて医師としての観点で、平成28年9月定例会において一般質問致しました。

「投票のバリアフリー」というテーマです。

選挙権の年齢も引き下げられ、より多くの方に選挙への門戸が開かれたことになりましたが、投票のバリアフリーに関してはどうでしょうか?

ご高齢の方、障害のある方への配慮は十分にされているでしょうか?

それらの広報は十分にされているでしょうか?

障害者差別解消法が平成28年に施行され、本市においても職員対応要領が規定され、そこには「合理的配慮の不提供の禁止」が定められており、これは選挙管理委員会も対象の組織であります。それにも関わらず、投票所での合理的配慮があまりにも不十分であると感じました。

現在、私の質問後より、期日前投票所におけるバリアフリー情報は広報して下さる様になりましたが、今後更に全ての投票所におけるバリアフリー情報の提供や、共通投票所の設置、他市では投票巡回バスを走らせている例もあります。西宮市の投票率がなぜ低いのか、市は調査研究し、少しでも投票のバリアを無くし投票率の上昇に寄与するべきだと考えています。



医師として、私がすべきこと。私がしたいこと。

平成29年9月定例会において、女性特有のがん検診について質問させて頂きました。

これは、主に乳がん検診に焦点を当てて行ったものですが、私は、子宮頸ガン検診の重要性も今後も訴えていきたいと考えています。

現在、21歳以上の女性を対象に2年に1回の検診が行われていますが、**21歳からの検診は本当に大切です。**それは、この癌はある程度病状が進行するまで症状がでないため、検診により早期発見することで、妊娠出産可能な治療方法を選択する事ができるからです。

また、**現在は20歳から30歳での発症が急激に増加**してきており、子供を産むことができる貴重な女性の体を守るため、**21歳になれば、必ず検診に行くという啓発や対策をしていかなければなりません。**

そのためには、**むしろ20歳になる以前からの啓発も大切**で、高校生に対して専門家による講義の機会を設ける、パンフレットを配布するなど、市はもっと力を入れて対策を講じるべきであると考えています。

平成29年3月では、高齢者救急と連携について。平成30年3月では、終末期における救急現場での蘇生について。

これら2つは関連するテーマとして、一般質問致しました。

現在、救急搬送数が増加しています。中でも高齢者の救急搬送が激増してきています。

しかしながら、在宅や施設での看取りの問題が充分に広く理解されていないことから、看取りの段階で、救急車を呼んでしまいます。そうすると、到着した救急隊は、蘇生措置をせざるを得ません。**蘇生措置以外に適切な対応があっても、そうできない現状がある**のです。また、独居高齢者や認知症の方が搬送された際には、**身元の確認や、家族確認、病態把握の為に病歴、延命措置を希望されるのかなど**の確認が必要です。

西宮市では「安心キット」と呼ばれるパッケージを配布していますが、あまり普及できていません。そこで、**お薬手帳を利用し、これらの情報源を一括して収集できれば大変有効である事を提案**しました。

蘇生処置、延命治療への対応については、大変デリケートな問題ではありますが、これから多死社会を迎える現状を鑑み、八王子市が取り組んでいる高齢者救急医療体制広域連絡会のような、**救急隊も交えた横断的な取り組みが必要**であると提案しました。

お薬手帳を活用した情報収集に関しては、前向きな手応えを感じた一方、救急隊に関しては、呼ばれたら蘇生処置を行うのが義務であるとのことで、膠着状態にあります。しかし、私は今後もこれからの高齢社会、多死社会を迎えるにあたり、**他職種の方々や救急隊の方々**と現状を話し合い、より適切な対応を検討する機会だけでも、**まずは設けていくべきであると考えています。**

父、上谷幸彦の感謝の想いを引き継いで、西宮市をもっと元気に。



私自身、西宮市北部の山口町で生まれ育ったからこそ、西宮市北部が抱える課題については強い想いがあります。

父は、7期28年かけて、西宮市の南北格差問題、利便性向上に取り組んできました。

一例を挙げれば、「さくらやまなみバス」という名前が存在しなかった頃から、南北の交通問題に取り組み、バスの運行を実現させたという点は、同じ西宮市議会議員としても素晴らしい実績だと考えています。この、**西宮市北部が抱える独特な課題の解決は、西宮市全体の発展のためにも大変重要なものだと、私は考えています。**私は、父が取り組んできた政策課題を継承し、西宮市全体のことを考えた政策として、提言し続けなくては**いけません。**西宮北部に、なぜ空き家が増え、高齢者が増加し、子供が減り、人口減少に転じてしまうのか。これは、日本全体の問題だから。と諦めてしまてはいけません。そこには、必ず理由があり、すべての問題を解決出来なくとも、少しでも多くのことを改善し、対策を講じなければいけません。

「循環バスを作って欲しい」「保育所入所手続きに本庁へ子供を連れていくのが大変」

「災害時、陸の孤島になってしまう」「高校までが非常に遠い」など、議員になってから、多くのご意見を伺ってきました。

この中でも「高校生の交通費助成」は早急に実施すべき重要な政策です。

その理由の一つに、人口動態を見ていると、高校進学時に西宮市北部から転出していく現象が現実起こっていることが挙げられます。

要は「**高校に通うのに西宮市北部に住むのは不便だから引っ越しをしよう**」ということです。

このような理由での人口流出対策として、実際、神戸市や篠山市では、交通費助成を取り入れており、**西宮市においても、ある一定の基準を設けて交通費補助をすべきであると考えます。**また、「循環バスの運行」も、重要な政策です。

高齢者の方々が外出できるようにするためだけでなく、通勤、通学にも活用できるような循環バスが必要です。早く安全に、通勤通学できるようにすることが、今後の人口減少を食い止める大きな課題ではないかと考えています。

人が減れば、バスの利用者も減り、バス便が減り、そうすれば不便になり、みんながまちを離れていってしまう。この悪循環をどこかで食い止められるように、循環バスの導入や、バスの便の増加など、市はより積極的に協力すべきではないでしょうか。そして、働きながら子育てをしていて感じることは、やはり、家族の存在のありがたさです。本会議などの公務の間、安心して子供を見ていてもらいたい。

これには、やはり家族の支えが一番です。**他市で実施されているような、2世代同居への補助や、近距離同居への補助**は、西宮市北部で、高齢になってからも一人暮らしをする方々と、そのご家族が支え合って生活するために、有効な対策になるかもしれません。

◎プロフィール

昭和48年(1973年)10月1日生まれ。西宮市立山口小学校、山口中学校卒業。

川崎医科大学付属高校、川崎医科大学卒業。

医師免許取得、現在は高田上谷病院副理事長。平成27年4月、前市議会議員である上谷幸彦(7期連続当選、西宮市議会議長などの要職を歴任)の想いを継承し初当選(現在1期目)。

平成28年4月、上谷学園 幸幼稚園理事長就任。

日本舞踊 音羽流 名取 音羽菊美弥幸

発行：西宮市議会議員 上谷幸美

連絡先：かみにゆみ事務所

◎上山口事務所 〒651-1421 西宮市山口町上山口4丁目5-12

◎下山口事務所 〒651-1412 西宮市山口町下山口5丁目3-7

TEL:078-903-0246 FAX:078-903-0238

MAIL:kamitaniyumi@gmail.com

HP:http://www.kamitaniyumi.com